



みのはな

編集兼発行者

千葉大学医学部

みのはな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1の8の1

千葉大学医学部庶務係気付

電話千葉(0472)22-7171内線2012

千葉大学医学部同窓会報 第67号 題字 鈴木五郎

流動的な

いのはなキャンパス

旧病院の改修など

いのはなキャンパスの管理運営をめぐる機構の一つに四部局長会議なるものがある。医学部長、病院長、生物活性研究所長および看護学部長の四名による連絡会議である。みのはな同窓会のある程度の年齢層以上の方々には全くもってわかりにくい話題であろう。その点を解く一つの鍵として、ややさびしくも思われるかも知れない表現で簡単に述べれば、いのはな台は今や医学部だけのものではなく全くあらゆる概念をもたなければならぬといのはなキャンパスであるということである。一人の風格のある千葉医科大学長がいて、二十何人かの医大の教授がいて、そのうちの何人かはいわゆる名物教授であり、いろいろのエピソードが生まれては消え、消えては生まれ、グラウンドでは行なわれつつある時代は残念乍ら何時か過ぎ去っている。医学部の教授は四十名、それを主宰する医学部長に抜群の能力が要求されることはまちがいない、活生研にまた教授会があり看護学部にはその特殊な性格により女性教授を含む教授会があり、病院長は大きな新病院の管理運営をかかえて能力を要求されている。四部局長会議という表現がそのまま現況を示すわけで、いのはな

キャンパスは今や医学部だけのものだけでなくつつあることを先輩諸先生にも知っておいていただきたい。

さてそのような状況の中での形勢的な大きな変化は、そり立つ新病院をもつたことである。そこで旧病院はどうなるのか。当然話題にされているであろう。結論を先に記せば、この同窓会報が手許に届く頃、旧病院改装についての入札が終わり、窓わくの改修がはじめられているのではないかといいことで、昭和五十五年の秋頃までは、基礎医学教室はすべて今の旧病院に移転し、臨床講座の研究室もあらたな割当区分に従って旧病院に残り、「教育研究棟」としてあたらしい使命の殿堂になる筈である。この改修には二十億円に近い費用がかかるということを考えても、かなり徹底的な工事が予定されていることがわかる。もちろん、病院として使用して来たものを研究室向きに改装するわけであるから多くの難点が残ることを覚悟しなければならぬが、基礎臨床一体の研究棟に、学生教育用の講堂、実習室等のすべてをそなえた巨大なビルという例は他にないといわれる点よりしても、この改修工事の円満な進行と、予定通りの使用目的を果せるようにする

ための努力が求められている。何年かにわたりこの計画をすすめて来た「教育研究棟設置特別委員会(井出源四郎委員長)はその使命を果して去る七月に解散、今は細かい移動問題その他を処理するために「教育研究棟改修検討特別委

脳研記念講演会

盛大に挙行さる

医学部附属脳機能研究施設が発足、初代萩原彌四郎教授が決定したのは昭和四十一年である。それから十二年ほど経ち、待望の第二部門、神経内科が併設されることになったのを記念して、頭書の講演会が昭和五十三年十月二十一日新病院三階第一講堂で開催された。講演会の進行は長谷川修司助教授、まず施設長萩原教授、初代施設長小林龍男名誉教授の挨拶があつて三題の講演が行なわれたが、各講演に演者ゆかりの座長が花を添え極めて好評であつた。

1、小脳変性症における錐体外路系障害——その臨床病理学的研究 千葉大 平山恵造教授 座長 順天大 榎林博太郎教授

2、現在の精神医療の動向 同和会千葉病院 仙波恒雄院長 座長 千葉大 佐藤孝三教授 3、視床を中心として——二三の考察 東大脳研 草間敏夫教授 座長 千葉大 大谷克己教授 日本学術会議員である本間三郎教授の閉会の挨拶のあと、会場を三階食堂に移して記念パーティーが行なわれた。パーティーは渡辺誠助教授の司会で進められたが、東大脳研島津教授の、発足の頃を偲んでの話が印象的であつた。講演会もパーティーも、遠く関西や東北などからも出席された方を含めて百余名を数え、盛会であつた。なお当日、脳研業績目録が配布された。

千葉大学30年史の編さんすすむ

昭和二十四年四月の新制千葉大学発足から三十年の昭和五十四年を期して、かねて編さんを急いでいた30年史も、ようやく各局部からの原稿が出そろい、予定通り発行できる見込みが強まってきた。この30年史はB5版八五〇頁程

度のもので、通史および部局篇があり、このうち医学部ならびに附属病院の割当は約一〇〇頁である。医学部関係の部局篇のために、医学部各講座、研究施設各部門、附属病院中央診療各部および附属三学校から各一名の編集委員が執

筆、さらに医学部および附属病院の事務部の協力もあつて、30年史の第5章がまとめられている。第5章はさらに5節に分けられ、第一節、前史、第二節、千葉大学医学部、附属病院の発足とその経過、および第四節、学生の教育を中心とする学科課程等計約11頁を事務部門が、第三節、講座等の研究・教育・診療の約84頁を各編集委員が、第五節、問題点と今後の課題約5頁を編集委員長がサポートしたものである。30年史はいわゆる年史であるので、先般医学部で刊行した百周年記念誌と異なり、楽しんで書いている部分はなく、頁数の関係で記述も簡略化されているが、史実の記録としての価値があり、医学部八十五年史や百周年記念誌と併読されれば、医学部百年の歩みとは別に、千葉大学という共同体の中における医学部の位置づけを知る点で興味があるものと思われる。

お知らせとお願い

同窓会費については、常に格段のご配慮をたまり、有難く御礼申し上げます。今年度もそろそろよろしくお願ひします。ところで信託銀行扱ひの分は、書換えの時期に当る会員が多く、また会費値上げに伴う増額の必要の方々もありません。近いうちに該当するむきには信託銀行より、その旨のお願ひをお届けすると思ひます。その折はなにとぞよろしくご協力の程願ひ上げます。

各地るのはな会

今年も盛んに行なわれる

六月より十一月の間に九地区でるのはな会が開催された。紙数の関係で各地のるのはな会の活動を抄録した。

◆山形のはな会(支部長、吉田良夫S19、副支部長、麻生和雄専24、支部幹事、矢崎光保S34) 六月八日、山形市にて、本部より横川・木村両教授が出席、懇親を主とした会、新病院が紹介された。

◆埼玉のはな会(支部長、川上名誠S12、支部幹事、川上成之S22、石井邦夫S26)。七月十五日、浦和市にて、本部より木村・金子両教授が出席、医療事故、耳下腺腫脹など学術講演のあと懇親

◆東京のはな会、役員改選が行なわれ、新役員はつぎの通り、会長、中村民比古S13、副会長、今井力S22、常任理事、山上健次郎専17、岡田毅S19、小倉一郎S

20。本部より香月学長、井出・牧野両教授が出席、学内事情および牧野教授の講演、7月15日。

◆神奈川のはな会、ここでも役員改選が行なわれた。新役員はつぎの通り。支部長、田中洋S15、副支部長、北條龍彦S1612、理事、広田和俊S27ほか。7月19日、本部より井出・岡本両教授が出席、懇親を主とした会であった。

◆山梨のはな会(支部長、守屋弘S13、幹事、佐々木芳岡専19、赤星至朗S34)、8月4日、甲府市にて、本部より井出・萩原両教授が出席、ここで話題はもっぱら山梨医大のこと、小人数の集りではあったが、よくまとまり、熱心に千葉大進出を要望。

◆静岡のはな会(支部長、大塚三八雄S6、副支部長、村尾正S14、渡辺六郎S10、常任理事、勝

なうわけであるが、多くの大学では募集人員の三倍程度で、いわゆる足切りを行なう。この場合、センターに問い合せた成績の上位のもの三倍程度までは受験できるが、それ以下のものは受験もできず、一年を棒に振らなくてはならない者が出る可能性がある。二次の出願に当って十分にこの点を考慮される必要がある。

◆茨城のはな会(支部長、中山立三T9、幹事、茂在豊喜S20) 十月十五日、土浦市にて、本部より佐藤病院長、木村教授が出席。両教授の講演および筑波大学で活躍中の本学出身者の紹介。

◆江戸川のはな会、中村前会長の東京るのはな会長就任に伴い、役員改選、新役員はつぎの通り。会長、小竹稔夫S14、副会長、笠川猛S22、玉置勉専25、滝沢明祐S31。十月二十五日、新小岩にて

「ご用心」

大学受験生を……

持つ父兄へ!!

今年度から大学入試に共通一次試験が行なわれることになり、千葉大でも八八八名が受験する。一月十三、十四日の試験直後に正解例が公表され、二月九日までに科目別平均点が公表される。受験者個々には得点が通知されないため、受験者は正解例と平均点から自分の出来がよいを知るほかはない。それによって二次の出願を行

呂安専20、中村武S20ほか四名幹事)八月十九日、浜松市にて、本部より三輪名誉教授、伊藤・萩原両教授が出席。浜松医大の新しい病院内を見学、伊藤教授の学術講演のあと懇親と多彩。静岡県支部としての会則及び会員名簿が整っている。

◆群馬のはな会、役員改選があり、支部長が内山信S7と松沢義之S29。十一月二十六日、前橋市にて、本部より高見沢・島崎両教授が出席、懇親を主とした会であった。

以上のごとく各地のはな会は益々盛んになり、組織も充実してきていることは、同窓に堪えない。ただし、この所本部側にも多少の手遅れがあったりして、連絡にやや欠ける所があった。できれば今回の記事程度の簡単な記録を、担当幹事より本部宛にお届けいただければ幸いである。(今回の記事に誤りがあれば折返しご一報下さい)

土浦市京成ホテルで十月十五日、本部から佐藤病院長及び法医学木村康教授をお迎えして、参会者五十六名と盛會裡に開催された。午後二時から、両教授に依る講演会が行われた。佐藤教授は、ボストンで開催された、国際消化器学会で講演されたお話をされたが、其中で、近い将来の食道癌の治療への示唆は興味深いものがあつたが、医療機器の莫大な費用には、些か恐れをなした感がある。又木村教授の絶妙な話術には、あまりにも時の経つのが早く、時間が短かすぎた様であった。

『るのはな』会茨城支部総会

本部より石川清)、萩原両教授が出席、東京のはな会に中村会長ほか役員を送り出して意気盛ん。

◆群馬のはな会、役員改選があり、支部長が内山信S7と松沢義之S29。十一月二十六日、前橋市にて、本部より高見沢・島崎両教授が出席、懇親を主とした会であった。

以上のごとく各地のはな会は益々盛んになり、組織も充実してきていることは、同窓に堪えない。ただし、この所本部側にも多少の手遅れがあったりして、連絡にやや欠ける所があった。できれば今回の記事程度の簡単な記録を、担当幹事より本部宛にお届けいただければ幸いである。(今回の記事に誤りがあれば折返しご一報下さい)

土浦市京成ホテルで十月十五日、本部から佐藤病院長及び法医学木村康教授をお迎えして、参会者五十六名と盛會裡に開催された。午後二時から、両教授に依る講演会が行われた。佐藤教授は、ボストンで開催された、国際消化器学会で講演されたお話をされたが、其中で、近い将来の食道癌の治療への示唆は興味深いものがあつたが、医療機器の莫大な費用には、些か恐れをなした感がある。又木村教授の絶妙な話術には、あまりにも時の経つのが早く、時間が短かすぎた様であった。

午後四時から総会並びに懇親会

昭和三十二年十月二十一日紅葉が美しい快晴の北信濃に、井出・本間両教授のおいでをまつて、長野市の国際会館で開催された。九月中旬本間先生から今回学術会議に立候補の予定になつていたので同窓会の皆様の協力を得るために長野で同窓会を開いて欲しいとの申し出があつた。早速小西(昭23・二外・長野市)、夏目(昭31・二外・長野市)の両北信るのはな会幹事をお願いして、開催の運びとなつた。ご承知のように長野県は南北三百キロにわたる広い県で、支部会員が一堂に会することは容易でないで、とりあえず東・北信地区三十八名の会員にご案内申し上げ、長野市近郊在住の十五名の会員が出席された。

が開かれたが、物故された石岡市松山健男先生の御冥福を祈り黙祷を捧げ、次いで二、三の会務報告があり懇親会に移った。本年は筑波大学に沢山の「のはな会員」(四五名)を迎え、会員の平均年齢の若返りもあつて、活気漂つたものがあつた。殊に野上一先生(昭二四専)の名詞もあつて、先輩後輩和氣藹々のうちに時の経つのも忘れられた。

夕暮れ濃い午後六時半、名残つきないま、来年の総会を約して散会したが、勢い余つて、両教授を囲んで二十名近くが二次会へと消えて行った。(M生)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

国際会館自慢の信州料理で、信州銘酒が、むほどに、和氣あいあい、賑かに参会者一同自己紹介と近況報告が進められ、小林(昭18・二外・長野市)の首頭で必勝祈念の万才三唱を最後に閉会した。当日の参加者は写真の寄せ書きの通りである。

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

東北信るのはな会開催される

昭和三十二年十月二十一日紅葉が美しい快晴の北信濃に、井出・本間両教授のおいでをまつて、長野市の国際会館で開催された。九月中旬本間先生から今回学術会議に立候補の予定になつていたので同窓会の皆様の協力を得るために長野で同窓会を開いて欲しいとの申し出があつた。早速小西(昭23・二外・長野市)、夏目(昭31・二外・長野市)の両北信るのはな会幹事をお願いして、開催の運びとなつた。ご承知のように長野県は南北三百キロにわたる広い県で、支部会員が一堂に会することは容易でないで、とりあえず東・北信地区三十八名の会員にご案内申し上げ、長野市近郊在住の十五名の会員が出席された。

が開かれたが、物故された石岡市松山健男先生の御冥福を祈り黙祷を捧げ、次いで二、三の会務報告があり懇親会に移った。本年は筑波大学に沢山の「のはな会員」(四五名)を迎え、会員の平均年齢の若返りもあつて、活気漂つたものがあつた。殊に野上一先生(昭二四専)の名詞もあつて、先輩後輩和氣藹々のうちに時の経つのも忘れられた。

夕暮れ濃い午後六時半、名残つきないま、来年の総会を約して散会したが、勢い余つて、両教授を囲んで二十名近くが二次会へと消えて行った。(M生)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)



追記 本間先生のご当選を心からお慶び申し上げ、今後の活躍を期待します。(会員の敬称略・熊谷信夫記)

総合大学院構想について

昭和二十四年、千葉大学が新制度にのって発足してから、そろそろ三十年になる。七学部、一研究所で始まった千葉大学も、現在九学部、一研究所、保健センターを持つまでに発展してきた。しかし大学院博士課程はいまだに医学部のみであり、修士課程も薬学、工学、理学、園芸の四学部しかない。昭和五十四年度には薬学系の博士課程、看護学部の修士課程が実現する運びとなっているが、それでもバランスのとれた総合大学には程遠い現状である。

各学部とも毎年大学院設置要求をくりかえしているが、これでも早急の実現はおぼつかない。そこで大学全体としてこの問題を取り上げようとしたのが、総合大学

富塚八十一先生(昭4卒)

『喜寿回想』を出版される

門下生より贈られた記念の壺



花束をうける富塚先生



門下生より贈られた記念の壺

富塚八十一先生 喜寿回想 出版記念 昭和五十四年四月

座、学科等が属することになる。その完成の暁には、既存の大学院は発展的解消を遂げることになり、医学博士課程のほとんどすべては将来生命科学系に所属することになる見込み。

なお、医学部以外の部局は修士課程まで各学部直属するものとし、その後総合大学院のいずれかの系に所属することになる。このようにすると、いわゆる学際領域の研究の進歩に貢献することが大であるとともに、千葉大学としてのアンバランスも是正されるものと考えられる。

また、この六学系については昭和五十四年度概算要求に提出される予定になっているが、同時に全学系が認可される見込はうすく、形態・内容のととのった学系から設置されるとのことで、医学部が関与する生命科学系が比較的早期に実現する可能性が高い。

本年七十四歳を迎えられなお意気旺々な先輩、富塚八十一先生は去る三月「喜寿回想」と題して、生いたちの記から起こして、その激しかった学究生活を経て今日に至る道を、四八二頁に及ぶ大著として出版された。序文はさきの第二内科教授、田坂定孝先生の筆による、馬杉賢次研究、先駆者的業績である「臓器穿孔の研究」についてもふさわしい紹介が行なわれている。業績目録、四十数名の方々による祝文を添え、挿色の表紙と共に印象深く、記念すべき出版である。「終りなきわが歩み」という副題はいかにも先生にふさわしいといえる。

スエーデンから帰って

奥井勝二

最近スエーデン・ルンド大学外科での留学を終え帰国したので、最新の国情・医療制度などについて報告する。ルンドという町はスエーデンの南部スコーネ地方にあり、デンマークの首都コペンハーゲンの対岸マルメ市より一五軒ほど北上した処にある人口七万五千程の大学都市である。こゝに一六六八年に開学した大学がある。スエーデンではウプサラ大学に次いで古い大学である。

スエーデンの面積は日本の一・二倍で、人口八五〇万、人口密度一八・三人(一平方キロ当り)、政治は立憲国主制、現国王はカール・グスタフ一六世で、最近の憲法改正で国王の地位は象徴的存在となった。現内閣は中央・自由・穏健連合の保守三党連立である。国家予算の歳入の四〇％は所得税・社会保険料でまかなわれており、

現在六校の国立大学医学部があり、私立大学はない。入学試験はなく、高等学校の内申書で入学が決定され、医学部入学者は最も成績のよい者が入って来ている。年限は五・五年、授業料は免除で、卒業後二カ月のインターン制度があり、その間に日本円で月額約三〇万円程度の俸給が支給され、医師国家試験合格後各科で約六年の卒後研修のカリキュラムが定められている。研修病院は地方の公立病院である。医師の数は一万四千人、病院数は八七〇余、一般の開業医は病床を持ってなく、入院を必要とする患者は大学病院が公立

病院に収容される。これらはいづれも公共投資を十分に受け立派な設備を擁している。緊急医療は当然これらの公立病院で行なわれ、各病院とも緊急患者用の病床が常に確保されている。医師の地位は高く、一般から尊敬され、また信頼され、よく日頃勉強しているように見うけられた。

ルンド大学病院は千七百床・マルメ総合病院は千八百床でスコネ地区の中心的大病院で、X線診断部・手術場・ICU・動物実験棟・多くの研究施設等が完備している。

以上最近のスエーデンの一面を紹介したが、この国の福祉政策・医療は日本と余りにも大きな相違があるように感ぜられた。これには長い歴史と伝統があり、多くの政治家・知識人・学者等が常に弛ゆまざる努力もしていると感じた。日本に帰って考えてみると、国情の違いと日本の良さを改めて味わっている処である。

精神医学
大塚嘉則氏(昭和39年卒)―整形外科学
伊藤晴夫氏(昭和39年卒)―泌尿器科学
土屋尚義氏(昭和29年卒)―第一内科学
三好武美氏(昭和38年卒)―放射線医学
飯島一彦氏(昭和41年卒)―麻酔学
なお雨宮浩氏(昭和35年卒、第二外科講師)は大阪国立循環器病センターに転任。

人事異動

昭和53年4月1日
6月1日

一、教授昇任
辻陽雄氏(整形外科学助教授、昭和33年卒)―富山医科薬科大学教授に。
植村研一氏(脳神経外科学講師、昭和34年卒)―浜松医科大学教授に。
一、助教昇任
村田忠雄氏(昭和36年卒)―整形外科学助教授に。

渡辺誠介氏(昭和27年卒)―脳機能研究施設神経内科助教授に。
玉置哲也氏(昭和38年卒)―富山医科薬科大学整形外科学助教授に。
一、講師昇任
関谷宗英氏(昭和40年卒)―産婦人科学。
中村泰久氏(昭和40年卒)―眼科
緑川隆氏(昭和38年卒)―神経

任 **新**
〔神経内科〕
平山 恵造 教授

53年1月16日、発令をみた本学医学部付属脳機能研究施設神経内科研究部教授として赴任された平山 恵造教授に新任の挨拶をいただいた。平山教授は旧 制浦和高校をへて、昭和29年東京大学卒業、順天堂 大学神経内科の助教授として活躍していた。

この度、千葉大学医学部付属脳機能研究施設に神経内科研究部が新設されたことは同慶の至りであり、神経内科(神経学)は、我が国で死因の第一位を占める脳血管障害をはじめとして、難病に指定されているいくつもの疾患、近年社会的にも問題となった水俣病やスモンから頭痛・神経痛の類に至るまで広い開口をもつものであります。後述の如く我が国では発展のおくれた分野であります。近代医学における神経学は欧州、特に英仏で既に百数十年の歴史をもち、神経学の講座が世界ではじめてパリ大学に置かれて、近代神経学の祖といわれるシャルコーが教授の席についてからでも百年近い年月が経って居ります。我が国では、三浦謙之助先生(日本人としての初代の東大内科教授、本学三浦義彰教授の厳父)が、晩年のシャルコーに師事し(一八九二年)帰朝されてから数々の業績を発表され、神経学講座独立の気運がたかまつたこともありましたが、諸般の事情から実現しませんでした。第二次世界大戦後、再び臨床神経学独立の気運がたかまがり一



六〇年代に入つて、九州大学をはじめとして東京大学・新潟大学・鳥取大学・東北大学に、また私学では順天堂大学に神経内科が設置され、十年余の間においてこの度本学に国立大学としては六番目の神経内科が発足したことは、洵によろこばしいことであります。



診療の向上、卒業前並びに卒業後の臨床教育、神経疾患の病態・病因・治療に関する研究等々、多くのなすべき問題が山積みしていますが、皆様方のよき御理解と御支援により、これらが可及的速かに軌道にのることを念願するものであります。 平山 恵造

川喜田先生ならではの書としてすでに多くの書評が世に出ている『近代医学の史的基盤』(岩波書店刊)の出版記念会が去る九月十六日午後、ちば共済会館にて開催された。相磯和嘉前学長、香月秀雄学長はじめ多数の名譽教授、教授方、その他学内外の親しい人々が参会し、きわめて知的な集りとなった。記念講演として、下村愛太郎先生の「風景と肖像の成立」と題する興味あるお話のあと、「細胞研究の歴史と現代医学生物学」の演題のもとに川喜田先生独特の話題が展開された。思い出を語られたあと、細胞に関する史的問題からはじめ、医学の発達の方角をじっくりと説かれた。かつての大学での講義ぶりを思い起こす人々も多かったと思う。いずれにしてもにぎやかな懇親会とともに近頃まれな、いふならばよき集りであった。

川喜田愛郎名譽教授出版記念会
「近代医学の史的基盤 (上・下)」

先生の御健康といよくの御健筆をお祈りする次第である。

解剖攬要

医学部図書館に寄贈さる

今回国吉病院院長尾本芳次氏(昭和12年卒)の御配慮により夷隅郡大原町深堀在住の最首雅晴氏から明治10年刊行の解剖攬要・全十三巻が医学部図書館に寄贈された。本書は田口和美東京帝国大学教授の著書で、縦書と同じ新書版(19×13cm)大の図書で解剖学教科書として書かれたものと思われる。著者の田口教授は千葉医専・千葉医大教授の田口碩臣先生(明治40

頭蓋内疾患の初期診療

植村研一著・篠原出版
 (浜松医大脳神経外科教授・昭34卒)

先頃本学より浜松医大脳神経外科教授に栄転した植村研一教授が、アメリカでの長い脳神経外科専門医教育の経験、帰国後本学を中心に経験されたさまざまな症例をまとめ、きわめてわかり易い筆の運びで、臨床医のためのポイントを明快に示した好著である。氏は最近医学教育法そのものにも深い

昭和26年卒業生クラス会

昨年十一月の日比谷公園松本楼でのクラス会では、医薬分業問題を中心とする医療制度についての権威者となった関根博君の興味ある話で評判になったが、半年後の本年七月八日には久しぶりに千葉

国鉄千葉駅より大学病院行バスの路線延長：
 ……新病院玄関前まで

新病院の業務開始と共に、かねて問題になっていた京成バス「大学病院行」の路線延長が十月一日より実現された。すなわち、今までの病院には入らず、旧大学病院前が、「医学部入口」となり、ついで「大学裏門」(生物活性研究所前)(畜産試験場入口)を経て新病院に達する。大学病院に行く場合は終点で下車、基礎医学教室、あるいは旧病院を訪ねる場合は「医学部入口」で下車しなければならぬので、久しぶりに母校を訪ねられる方は御注意下さい。

編集後記

何とか67号を編集しおわつてみたら、今年もあと二十日のごすたらとなつていた。実際には65、66、67号と三号をまとめてお届けすることになってしまった。一ヶ月のニュースをまとめてみていたたく羽目になったのは、編集長の責任という他ない。幸いに諸般の情勢は好転しているので今後は従来のように定期刊行が出来る見通しである。68号は二月中に、69号は四月中にお手もとにとどけられるように努力する所存である。よき初春をお迎え下さるようお祈りします。(村山 智)